

《薬局サーベイランスコメント》

『例年であれば流行のピークを迎えつつある時期である、今シーズンはあまり患者数の増加をみないまま2月に入っていくと予想される』

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanijyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020年シーズン）の2020年第4週（1月20日～1月26日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は約617,000となり、前週の値（第3週；約600,000）からやや増加しました（図1）。週明けの第5週の月曜日（2020年1月27日）の推定患者数は約124,000と第4週の休日明けの値（約144,000）よりも減少している一方、インフルエンザの流行の中心となる5～14歳の年齢群の第4週の罹患率は上昇が続いており、患者数は横ばい状態が続く可能性があります。

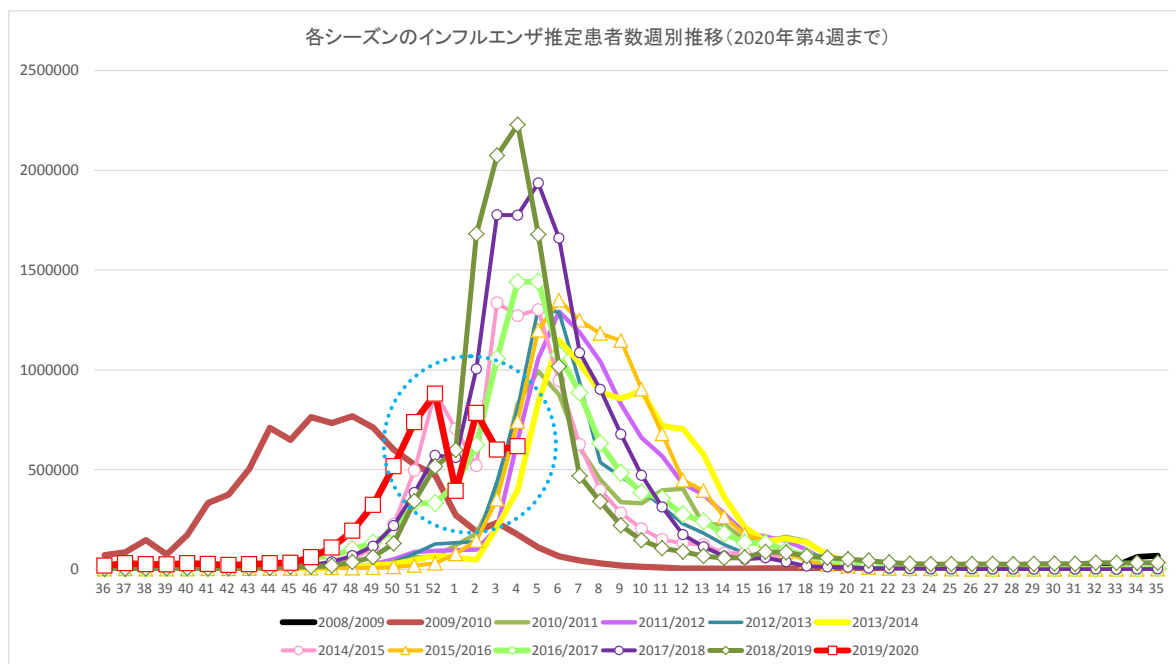


図1. 過去11シーズンと今シーズン(2019/2020年シーズン)の2019年第36週～2020年第4週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019年第36週から2020年第4週までの累積の推定患者数は約5,478,000であり、2019年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は4.34%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(19.03%)、10～14歳(13.22%)、0～4歳(10.70%)、15～19歳(4.75%)、40～49歳(4.74%)、30～39歳(4.68%)、20～29歳(3.22%)、50～59歳(3.03%)の順となっています(図2)。

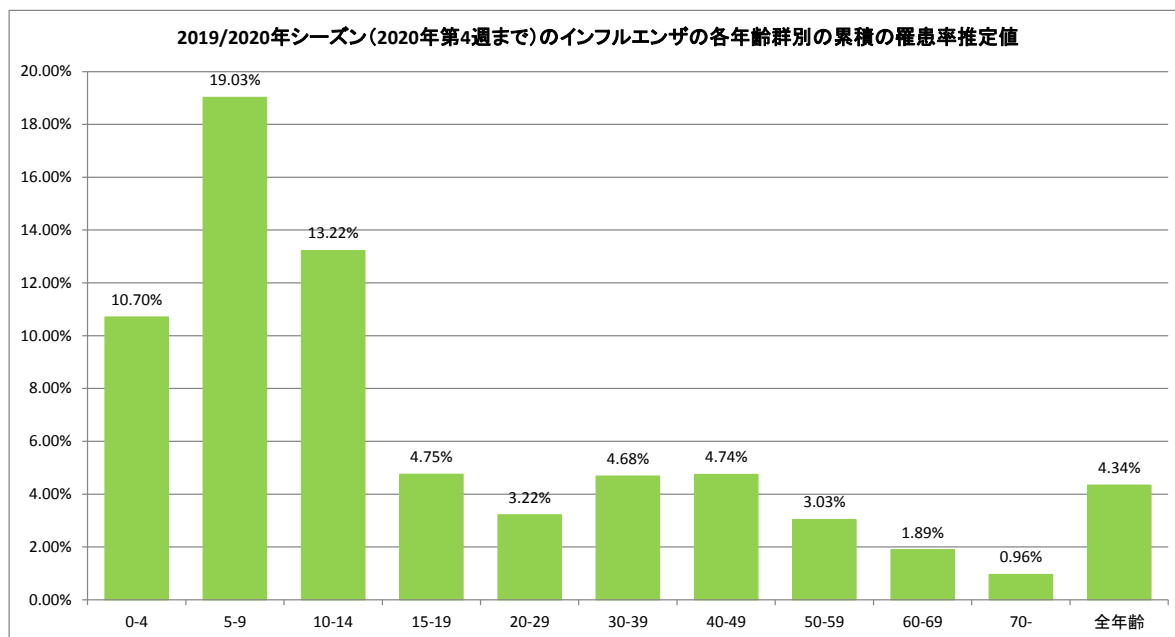


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値 (2019 年第 36~2020 年第 4 週、累積推定患者数=約 5,478,000)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (2,402 検体解析) は、A/H1pdm が 93.9%と最多であり、次いで A/H3 (A 香港) 亜型、B 型共に 3.0%となっています。

2020 年第 4 週のインフルエンザの推定患者数は、前週からやや増加しました。例年であれば流行のピークを迎えつつある時期ですが、今シーズンはあまり患者数の増加をみないまま 2 月に入っていくと予想されます。まだインフルエンザの流行は継続しており、今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。

2020 年 1 月 28 日
 済生会中津病院感染管理室
 安井 良則